

糸ADVANCE～前進・進化～ 第15号

大阪市立十三中学校 77 期生「学年通信」 2022 年10月3日

☆幸運は、準備をしている人のところにおとずれる…☆

早いもので、もう10月ですね。今年も残すこと3か月。今年度は、残すこと6か月。折り返し地点ですね。今週は、天気予報によると気温の変動や天気の変化が大きくなりそうです。体調や登下校時の安全に気をつけましょうね。

さて、今週の6日(木)と7日(金)は、中間テストです。授業や家庭学習を大切に、しっかりと準備をして受験しましょう!!

さて、みなさん、こんなお話を知っていますか?

ある夏の日、キリギリスは得意なバイオリンをひき、歌を歌って楽しく野原ですごしていました。

そこへ通りがかったのは、食べ物をせっせと運ぶアリたちの行列でした。

不思議に思ったキリギリスは、アリたちにたずねました。

「おい、そんなに汗をびっしょりかいて、何をしてるんだい?」

するとアリたちはこう答えます。

「食べ物がなくなってしまう冬のために、食べ物を運んでいるんですよ」

それを聞いたキリギリスは笑います。

「だけど、ここには食べ物がいっぱいあるじゃないか。まだ夏なのに!夏の間は、楽しく歌を歌ったり、遊んだりしていればいいのに」

「でもね…今は夏だから食べ物がたくさんあるけど…冬が来たらここも食べ物がなくなってしまうよ。今のうちにたくさんの食べ物を集めておかないと、あとで困りますよ」

「まだ、夏が始まったばかり。冬のことは冬が来てから考えればいいのさ」こう答えると、キリギリスは、バイオリンをひき、歌ってすごし、アリたちは、食料を集め続けました。

やがて夏が終わり、秋が来て、だんだん野原もさみしくなってきました。

キリギリスは、まだまだ陽気にバイオリンをひき、歌っています。

そして、とうとう寒い寒い冬が来ました。野原の草はすっかりとかれはてて、キリギリスの食べ物は無くなり、困ってしまいました。

「ああ…お腹がすいたなあ…。困ったなあ…。」

このお話は、イソップ^{くわち}寓話の「アリとキリギリス」というお話です。

結末は、いくつかあります。

①キリギリスは、夏に働いていたアリをからかったので、食料を分けてもらえないのではないかと考えていましたが、アリは「どうぞ食べてください」と言ってくれた。

キリギリスは、まじめに働くようになった。

…困った人を助ける優しい人になろうという教訓!!

②アリは、「夏はバイオリンをひき歌ってすごしたのだから、冬は踊ってすごせばいいんじゃない?」と言い扉を閉めて追い返してしまった。

…先を見通したり、後先を考えずに過ごすその後で困るという教訓!!

③アリは、「夏はバイオリンをひき歌ってすごしたのだから、冬は踊ってすごせばいいんじゃない?」と言いました。すると、キリギリスはこう答えました。「もう歌うべき歌はすべて歌った。君たちは、ぼくの死がいを食べて生きのびればいいよ」

…幸せの基準やものさしは、人によって違うという教訓!!

意地を張って言った言葉もあるかもしれませんが、いずれにせよ考えさせられる結末ですね。

寓話とは、登場者が動物、植物、自然現象などによる例えによって、人間生活になじみ深い出来事や教訓を織りこんだ物語のことです。

中間テスト前号としては、自分の将来に向けて、コツコツと準備をして、後で困らないようにしておきましょう!!と伝えたいです。

価値観が多様化し、互いの個性を認め合って「共生」していくことが求められる時代です。テストの点数や提出物、授業態度などの「見える学力!!」は、将来の夢や目標を達成するために必要な場面も多いです。10年後20年後…の社会で自分らしく生きるためには、「見えない学力!!」も大切です。「自分と人を大切にする力」、「自分の考えを持つ力」、「自分を表現する力」、「チャレンジする力」、これら4つの「見えない学力!!」と「見える学力!!」を意識して、授業・テスト・行事と頑張る10月にしましょう!!